

DIVERSITY SOCCER ASSOCIATION



NPO法人ダイバーシティサッカー協会 2022年度アニュアルレポート



代表挨拶

みなさま、いつも多大なるご支援・ご声援、ありがとうございます。おかげさまで、今年度も無事にアニュアルレポートをお届けすることができました。

「サッカーをしよう！」

2022年度は、そんな当たり前の掛け声から始まりました。2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で大人数が集まるイベントを制限することとなり、オンラインイベントや小規模の屋外イベントを中心に活動を行ってきました。でも、ダイバーシティサッカーの持ち味は、なんといっても大勢で集まってボールを蹴ること。これにつきます。

東京と大阪の野武士ジャパン通常練習は、多くのボランティアのみなさんにまた集まっていただけるようになりました。ダイバーシティカップを進化させたダイバーシティリーグは、新たなパートナー団体のみなさんとサッカーボールを介して繋がる機会となり、ホームレスやひきこもり経験者、LGBTQ+の当事者と支援者、被差別部落地域や外国にルーツを持つ子どもや若者たちが、ともに学び合うことができました。

東北のまきばフリースクール主催のMKBカップには、東京から野武士ジャパン有志が遠征し、参加したカテゴリーで見事優勝を飾りました。立派なトロフィーを誇らしげに掲げるメンバーの姿は、自信に満ち溢れていました。メンバーはそれぞれ、新しい仕事に就いたり、パソコンの使い方を覚えたり、日常でも様々なチャレンジをしています。

サッカーを通じて、仲間はずれを生み出さない社会へ。

2023年度も少しずつ、前に進んでいきたいと思います。



ダイバーシティサッカー協会の事業

ダイバーシティサッカー協会は、ホームレス状態、若年無業、うつ病、ひきこもり、依存症をはじめ、何らかの社会的な困難を抱えた人々のために、「好きなことを思い切り楽しむ」機会と「自分らしくいられる居場所」を創出し、それらをつなぎ、「すべての人を包み込む社会」を実現するため、4つの事業を展開しています。

スポーツを通じた居場所づくり応援

多様な社会的困難を抱える人たちが、日常的に自分らしくいられる機会を創出するために、サッカーだけでなくスポーツや文化活動を通じて居場所づくりを行う団体やチームを応援しています。NPO法人ビッグイシュー基金と協働で、ホームレス状態の当事者・経験者が中心のサッカーチーム「野武士ジャパン」の東京・大阪での練習の運営サポートを行うほか、全国各地のパートナーと連携してオンラインでの交流会の開催や寄付されたサッカー用具の提供などを行っています。



国内大会・交流イベント

それぞれの居場所を超えた交流と相互理解の機会として、全国各地でフットサルを通じた交流イベントを開催しています。2022年度は、宮城、東京、関西（大阪、滋賀）で行いました。また、ダイバーシティサッカーに関わるみなさんが個人として参加し集える個人参加型フットサル交流会「ダサCo-Sal」も併せて実施しました。これからもパートナー団体と協力して、もっと多様でたくさんの方が新しい楽しさに出会える大会を、全国に広げていきます。

ホームレス・ワールドカップ関連事業

ホームレス・ワールドカップは、ホームレス状態の人やそうなるリスクの高い人たちが、一生に一度だけ出場できるストリートサッカーの世界大会です。日本代表は、過去3回出場しました。ダイバーシティサッカー協会は、日本の公式パートナーとして代表チームの再派遣を目指しており、本部や各国のパートナー団体とのオンライン会議等を通じてコミュニケーションを続けています。



調査・研究・広報

スポーツを通じた居場所づくりの事例調査やノウハウ開発のための研究を行い、成果を発信しています。大会運営の工夫、参加者の日常生活への影響、コーチングノウハウなどをテーマに当事者と支援者が集まって勉強会を開催したり、インタビュー調査を実施しています。また、HPを中心に、Twitter、Facebook、InstagramなどのSNSを通じた発信や寄付者や関係者には直近の活動を報告するニュースレターの送付を行っています。

もくじ

NPO法人ダイバーシティサッカー協会 2022年度アニュアルレポート

代表挨拶	P.2	ダイバーシティリーグ	P.6-7
ダイバーシティサッカー協会の事業	P.3	2022年度の主な活動	P.8-9
居場所づくり応援 大阪	P.4	MKBカップへの遠征	P.10
居場所づくり応援 東京	P.5	その他ご報告・会計情報	P.11-12

コロナ禍が収束 に向かいはじめ、
毎月第2、第4土曜日に東京と大阪で行っている野武士ジャパンの練習も
以前の活気を取り戻してきました。

大阪の練習は18時開始、20時終了です。

とはいっても参加者のみなさんは三々五々、それぞれのタイミングで参加されるので、全員が集まるのは最後の30分ぐらいです。参加頻度も、毎週来られる方から数年ぶりに来られる方まで、様々です。

また年齢層は、10代の方から60代の方まで幅広く、当事者の方だけでなく、学生さんや大学の先生、支援者の方、ボランティアの方など、いろいろな方が参加されています。

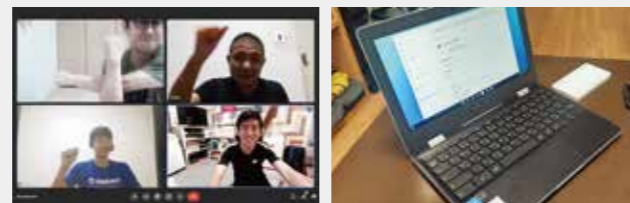
昔はサッカーをだいぶやっていたというような方から、サッカーの経験がない中で得点を取ることを目標に参加し続けている方まで、参加者のモチベーションも様々です。

百聞は一見に如かず。もし興味を持たれましたら、ぜひ一度参加してみてください。



オンラインプログラムの提供と環境整備

2022年度もオンラインで集まってみんなで体を動かす、リモートワークアウト「Stay Home! Stay Active!」を計10回開催しました。また当事者の中には通信環境を持つことが難しい方もおられるため、当協会でも用意したポケットWi-Fiや持ち運びできるパソコンの貸し出し事業も行っています。



インターン生の声

練習への参加を通して、居心地のよさと、身体を動かす楽しさの両方を感じています。それぞれの参加者が、それぞれのやり方で、温かい空気を作りながら、身体を動かしています。練習終了後にはいつも、充実した疲労感が残ります。

ダイバーシティリーグ

初開催!!

2015年から2020年までに8回にわたって開催した「ダイバーシティカップ」は、フットサルを中心に、多様な生きづらさを抱える当事者と支援者が、立場を超えて交流し、つながり合うお祭りでした。これをより日常的なものにしたい!という思いから立ち上がったのが「ダイバーシティリーグ」です。初年度の今年、関西(大阪・滋賀)、関東(東京)、東北(宮城)の3地域で計10回開催しました。あわせて、ダイバーシティリーグで出会った人たちが個人単位で集まって交流できる個人参加型フットサル交流会ダサCo-Salも、東京と大阪で計3回開催。全体でのべ400人以上の方が参加してくださいました。

ダイバーシティリーグ in 東北

宮城県で若者支援を行なう「まきばフリースクール」を中心に、東北で被災地支援を行なう団体などが集まって交流しました。「ルールを工夫して、誰でも楽しめるフットサルを自分たちで考えることに挑戦しました。でも、ちょっとお題が難しかったかも(笑)。単純に大勢で集まってボールを蹴る楽しさも、大事だと思いました。少しずつ仲間を増やしていければ!」と語るのは、主催者の中山さん(まきばフリースクール)。来年度に向けて手応えを得たようです。



第1回 7月3日@宮城・ベルサンピアみやぎ泉(30人が参加)
第2回 9月25日@宮城・ベルサンピアみやぎ泉(15人が参加)



ダイバーシティリーグ in 東京

東京のダイバーシティリーグでは、ホーム&アウェー方式にチャレンジ。三鷹市で活動するフリースクール「コスモ高等部」、野武士ジャパン東京チーム、一橋大学の学生有志の3チームが集まりました。11月12日の第1回は一橋大学で開催。「みんなが楽しい!をみんなで作る」をテーマに、いろんな人と話せる・関われるプログラムを盛り込みました。終了後には、インターンによるキャンパス案内も行いました。3月11日の第2回は、コスモ高等部のホームに近い調布市で開催しました。1回目で打ち解けたメンバーが多く、3時間みっちりフットサルを楽しみました。



第1回 11月12日@一橋大学(37人が参加)



第2回 3月11日@ミズノフットサルプラザ調布(37人が参加)



12月24日ダサCo-Sal@東京・パライゾ東陽町(17人が参加)
ウォーミングアップを兼ねたアイスブレイクや、シンハラ語による特殊なルール説明で内容を予想しながらのウォーキングサッカーなど、見学者も含めて楽しめるプログラムを実施しました。

ダイバーシティリーグ in 関西

大阪では過去にダイバーシティカップに参加経験のある団体を中心に、今年度から新たに関わりをもった団体とも協働して、それぞれの地域や活動テーマに沿って全6回のリーグ戦を開きました。ホーム&アウェーと称して、それぞれの団体が本拠地とする地域でのフットサル交流を行ったほか、街歩きやボードゲーム、BBQなど、フットサルの前後でのプログラムも充実させました。また、従来の枠組みにとられない新たなルールでのフットサルを実施するなど、チャレンジの多い1年でした。



Photo: 鈴木杏奈

第1回 7月9日@大阪・フットメッセ天下茶屋(40人が参加)
野武士ジャパン大阪チームやひきこもりや不登校の経験者が中心のヒキマップ、箕面市・萱野地域の子どもや若者が参加する北芝FCの3チームが参加し、通常ルールのフットサルに加えて、当日考案した特殊なルールで対戦しました。



Photo: 鈴木杏奈

第2回 10月8日@大阪府箕面市(24人が参加)
暮らしづくりネットワーク北芝がある地域の街歩きを行い、NPOとしての活動や街の歴史について学んだ後、地域の小学校の体育館でフットサル交流会を実施しました。



第3回 12月10日@大阪・フットメッセ天下茶屋(16人が参加)
生きづらさを抱える人の自助会Breakとのコラボ企画として開催。フットサル交流の後には、食事をしながら団体の紹介やボードゲームなどを楽しみました。



第4回 2月11日@大阪・もりのみやキューズモール(31人が参加)
新たにできた常設のLGBTQセンターのプライドセンター大阪とのコラボ企画として開催。大阪の野武士ジャパンの練習に普段から参加しているメンバー有志がファシリテーターに初挑戦しました。



第5回 3月11日@滋賀ダイハツアリーナ(23人が参加)
精神障害者とその支援者が中心のフットサルチーム滋賀ラウンドドッグスとのコラボ企画として開催。滋賀県内からの参加者に加え、大阪の野武士ジャパンの有志も遠征しました。

第6回 3月21日@大阪・舞洲ミズノスポーツアイランド(107人が参加)
外国にルーツのある子どもの学習支援を行うminamiこども教室とコラボで開催。広大なグラウンドを借りてフットサル大会を実施し、BBQなども開催。
12月31日ダサCo-Sal@大阪・フットメッセ天下茶屋(10人が参加)
3月25日ダサCo-Sal@大阪・キャプテン翼フィールド梅田(17人が参加)

2022年度の主な活動

2022年

- 5/26 スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版のオンラインイベントに、理事の長谷川知広が登壇
- 7/3 ダイバーシティリーグin宮城@ベルサンピアみやぎ泉
- 7/9 ダイバーシティリーグin関西@大阪・フットメッセ天下茶屋
- 9/24～ヒキマップへのヒアリング調査を開始
- 9/25 ダイバーシティリーグin宮城@ベルサンピアみやぎ泉
- 9/30 劇団「青春事情」による舞台
～10/4 『NO GOAL-HOMELESS
WORLD CUP- 2022ver.』招待鑑賞
- 10/8 ダイバーシティリーグin関西@大阪府箕面市
- 11/3 野武士ジャパン東京チームが宮城の「MKBカップ」に出場
- 11/12 ダイバーシティリーグin東京@一橋大学
- 11/20 FIFA ワールドカップ カタール大会
～12/18 オンライン観戦企画
- 12/10 ダイバーシティリーグin関西@大阪・フットメッセ天下茶屋
- 12/15 ふくしまNPOのつどい「野武士ジャパンの事例から、ダイバーシティを学ぶ」に、理事の川上翔が登壇。
- 12/24 個人参加型フットサル交流会@東京・パライーゾ東陽町
- 12/31 個人参加型フットサル交流会@大阪・フットメッセ天下茶屋

2023年

- 1/30 岡部茜さんが新たに理事に就任
- 2/11 ダイバーシティリーグin関西@大阪・もりのみやキューズモール
- 3/11 ダイバーシティリーグin関西@滋賀ダイハツアリーナ
- 3/11 ダイバーシティリーグin東京@ミズノフットサルプラザ調布
- 3/21 ダイバーシティリーグin関西@大阪・舞洲ミズノスポーツアイランド
- 3/25 個人参加型フットサル交流会@キャプテン翼フィールド大阪梅田

上記に加え、毎月第2、第4土曜日に大阪と東京で野武士ジャパンの練習会を継続した他、オンラインでのエクササイズプログラムも行った。

Photo : ③⑦⑧⑩ = 鈴木杏奈 / ⑥⑨⑫ = 有本勇人



①⑩宮城で開かれたMKBカップへの遠征。優勝カップを掲げるメンバーと、優勝が決まった喜びの瞬間。
 ②滋賀ダイハツアリーナでのダイバーシティリーグ。大阪から参加したメンバーが話している様子。
 ③⑦⑧大阪・フットメッセ天下茶屋にて。時には真剣に時には笑顔でボールを追いかけ、交流を楽しんだ。
 ④⑤⑥⑨⑫一橋大学で開催したダイバーシティリーグの様子。一橋大学の学生さんも参加し、普段体験しないようなメニューにも積極的に取り組んだ。
 ⑬暮らしづくりネットワーク北芝の本拠地・大阪府箕面市で行ったダイバーシティリーグin関西(第2回)。大阪市内での第1回と併せたホーム&アウェイ形式で参加団体相互の理解を深めた。

MKBカップへの遠征



11月3日、宮城県のパートナー団体のまきばフリースクールが主催するフットサル大会「MKBカップ」に、野武士ジャパン東京チームが参加しました。

久しぶりの宿泊を伴う遠征になり、まきばフリースクールの施設にて、みんなで布団を並べて寝ました。参加メンバーからは「遅れてきた青春時代。若い頃を思い出す。」との声も聞かれました。

大会当日は、秋晴れの中、計9団体、約180人が会場のグリーンピア岩沼に集いました。フットサルだけでなく、東北名物の芋煮が提供されるなど、和気あいあいとした雰囲気の中スタートしました。

多様な競技レベルの人が参加するミックスリーグに出場し、70代のメンバーも懸命にプレー。その結果、トーナメントを勝ち上がり、なんと決勝に進出。決勝戦は、前半に2点を奪われる厳しい展開も、後半は激しい点の入れあいとなり、3対3の同点に。延長戦では得点を奪えず、勝敗はPK戦にもつれ込みました。最終的にはサドンデスの結果、9人目で野武士ジャパンのメンバーの一人がゴールを決めて、優勝することができました。また、閉会式では、参加メンバーが最優秀DF賞を受賞しました。2023年も連覇を目指して参加を予定しています。



参加者の声 花渕さん

高速道路をパーキングエリアに寄りながら、みんなで移動して大会に行けたのが、とても楽しかったですね。PKが2巡目まで周り、参加したみんなが白熱したと思えるような試合をできました。あんな体験は今までなかったです。



参加者の声 佐々木さん

久しぶりの遠征、ルールの違いがある中、どうなることかと思っていました。最初はぼろ負けするんじゃないかと思っていたぐらいで、優勝するとは夢にも思っていませでした。行ってよかった。2023年もやれるところまでやりたい！

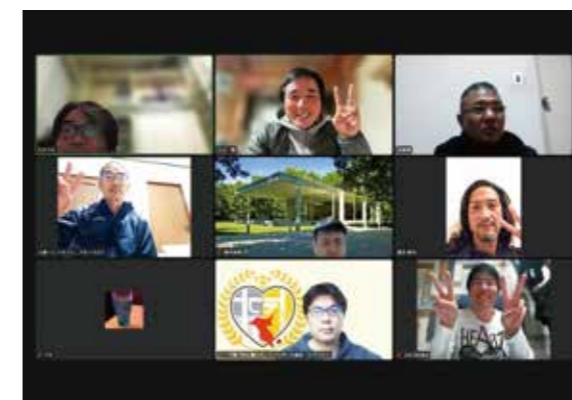
ホームレス・ワールドカップ 関連事業

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が予定されていた本大会が中止になり、オンラインでの交流が主になりました。ホームレス・ワールドカップを主催するHomeless World Cup Foundationの呼びかけで、オンラインでアジアのナショナルパートナー(各国の選手派遣団体)の会議が開催されました。日本のナショナルパートナーである当協会も参加しました。2023年7月にはアメリカ・サクラメントでのホームレス・ワールドカップの開催が決まっており、当協会からも視察メンバーを送る予定になっています。



2022 FIFA 男子ワールドカップ カタール大会オンライン観戦

2022年11月20日～12月18日にかけて開かれたFIFA男子ワールドカップ カタール大会のオンライン観戦イベントを、千葉『共に』暮らすフットボール協会と共同で行いました。日本代表が戦ったグループステージ3試合と決勝トーナメント1試合、そしてアルゼンチン対フランスの決勝戦の計5試合を視聴しました。参加者からは、「場所を超えて一緒に盛り上がる事ができてよかった」などの声が聞かれました。



岡部 茜さんが新たに理事に就任しました

2023年1月、社会学者で大谷大学講師の岡部茜(おかべ あかね)さんが、新たにダイバーシティサッカー協会の理事に就任しました。

〈岡部理事コメント〉「生活の困難さを経験している若者が生きやすくなる仕組みづくりについて研究しています。研究を通じた観点を協会の活動にも反映できればと考えています。よろしくお祈りします。」



ひきこもり、不登校などの経験者への聞き取り調査を実施

2022年9月～23年1月にかけて、大阪の野武士ジャパン練習会に参加する、ひきこもりや不登校などの経験者とその関係者など5人に聞き取り調査を行いました。この調査は、スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラムの助成を活用し、大手前大学准教授で社会学者の伊藤康貴氏の協力のもと実施しました。これまでの生育歴やサッカーに参加するようになったきっかけ、サッカーが生活に及ぼした影響などについて非構造化インタビューを行いました。調査結果は、翌年度以降に報告書などの形で発信する予定です。

会計情報 (単位：円)

※2022年度は住友生命健康財団「スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム チャレンジコース」の助成を受けました。
※詳細な会計情報はホームページに掲載しています。

活動計算書2022年4月～2023年3月	
◎経常収益	2,222,996
受取会費	472,000
受取寄付金	205,984
受取助成金(2023年度活動助成金含む)	1,360,000
事業収益	0
その他収益	185,012
◎経常費用	
事業費	1,482,595(うち人件費)0
管理費	171,140(うち人件費)0
◎当期正味財産増減額	569,261
◎前期正味財産額	2,376,261
◎次期正味財産額	2,945,522

寄付サポーター & ボランティア大募集！

ダイバーシティサッカー協会の活動は、みなさまの寄付やボランティアで支えられています。

わたしたちのイベントや日々の活動の参加者には経済的な余裕のない人も多く、参加費を極力低く抑える必要があります。そのため、これらの活動は各種の助成金、個人や団体からの寄付金、そしてボランティアのみなさんの活躍に依存しています。

みなさまの寄付金によって、ホームレス、ひきこもり、精神障害、依存症など多様な社会的困難を抱えた人たちに、スポーツを通じた居場所を安定的に提供できるようになります。また調査研究を通じて多様な社会的困難についての理解を深め、わたしたちの活動をよりよいものにしていくことも可能になります。ぜひご支援ください！

また、ボランティアも募集しています。イベントレポートの執筆や写真撮影、大会や練習運営のサポート、SNS広報など、ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください！

寄付サポーター になりたい方はこちらから

<https://diversity-soccer.org/donation/>



ボランティア希望 等のお問い合わせはこちらから



info@diversity-soccer.org

メディア情報

2022年8月26日にWEBマガジン「greenz.jp」に、理事のインタビューが掲載されました。ダイバーシティリーグや、ひきこもりやホームレスを経験した参加者の声も紹介されています。



2022年11月25日、J-WAVEのラジオ番組「JK RADIO TOKYO UNITED」内のNPOなどの活動を紹介するコーナー「EYES ON THE FUTURE」で、当協会の活動について取り上げられました。



NPO法人

ダイバーシティサッカー協会役員

代表理事 鈴木 直文(一橋大学 教授)

理事 岡部 茜(大谷大学 講師)

川上 翔(事務局)

竹内 佑一(事務局長/PSIカウンセリングルーム 代表)

長谷川 知広(ダイバーシティサッカー協会 創設者)

蛭間 芳樹(銀行員/NPO法人ビッグイシュー基金 理事)

監事 青木 弘達(株式会社リヴァ 取締役)

油井 和徳(NPO山友会 副代表)

アンバサダー 星野 智幸(小説家)

diversity  soccer

ダイバーシティサッカー協会
2022-2023アニュアルレポート
2023年10月30日発行
発行：NPO法人ダイバーシティサッカー協会
デザイン：内海真由美 (MU design)
執筆協力：今井萌葉

NPO法人ダイバーシティサッカー協会

<https://diversity-soccer.org>

〒542-0081 大阪市中央区南船場3丁目11-27

 info@diversity-soccer.org



[Facebook] @Diversity.soccer



[Twitter] @DSA_Japan



[Instagram] @dsa_japan



[YouTube] ダイバーシティサッカー協会